

令和7年度学校評価表

1 学校教育目標

教育基本法並びに学校教育法の精神にのっとり、中学校教育の基礎にたつて、様々な学習活動を通して知識や技能を修得させ、個性豊かな良識ある社会人を育成する。

2 中・長期的目標

- 生徒が基本的な生活習慣を身につけ、社会や学校のルールやマナーを守る大切さを理解して行動するよう意識向上を図ります。
 - 生徒が落ち着いて学習に取り組める環境を維持し、生徒・教職員ともに授業を第一としてその改善に取り組み、基礎学力向上と知識・技能の習得を図ります。
 - 生徒・教職員ともに思いやりの心をもって自分自身と他者を尊重し、「いじめ・体罰・ハラスメント」は「しない・させない・許さない」姿勢で臨み、学校が一丸となってその防止に努めます。
 - キャリア教育を充実させ、早期から進路意識の形成を支援し、学習や学校諸活動における協働的活動を通して自己実現と社会につながる力を高めます。
 - 本校の教育活動について、ICT活用を推進し、情報発信に努めます。また、生徒・職員全員が保護者・地域と学校との関わりの大切さを認識し、地域に愛され、信頼される学校づくりを目指します。
- (A:達成している B:やや達成している C:やや達成していない D:達成していない)

3 中・長期的目標に基づく今年度の重点目標・具体的方策

具体的目標と方策		評価の観点		年度末評価				
				A	B	C	D	成果と今後の課題
(1)に係り								
①《生徒会係》 生徒会の各委員会が、「協働」に係る具体的な目標を掲げ、ひとりひとりが分担した活動を主体的に取り組み、公民的生活を築く		・生徒にとって具体的な目標を各委員会が設定できたか。 ・それに基づき、主体的にコミュニケーションをとりながら委員全員で活動をし、公民的生活の環境作りができたか。		10.7%	75.0%	14.3%	0.0%	執行部の発足から生徒と関係を築いて積み重ねていかないと、公民的判断に近づけない難しい学校である。目と心を配る時間が必要であるが、勤務時間内での仕事のあり方を工夫したい。
②《生徒会係・生徒指導係・図書防災清美担当》 挨拶運動・清掃活動を、生徒会主体で継続的に行う。また職員個々が積極的に生徒への声掛けをし、挨拶・清掃活動を円滑にする		・生徒会で活動の企画、継続的实施などができたか。 ・校風確立週間での挨拶運動を通じて、挨拶への意識を高めることができたか。 ・校内校外の清掃活動を行うことで、美化や分別などの意識を向上させることができたか。		10.7%	75.0%	14.3%	0.0%	生徒が行わない身だしなみ検査や校風確立週間は、教師の指示的意味が強いため、改善してほしい。生徒主体の活動とは何なのか確認したい。校風確立週間でのあいさつ運動、身だしなみ指導を実施することはできたが、挨拶が定着しているかは疑問である。今後はやり方を含め改善していきたい。清掃チェック活動や松濤祭での活動など、生徒主体で動くことができた。清掃についてのアンケートを取り、意見をまとめることができた。この意見を元に、自分達の学校を自分達で綺麗にするという意識を高めていきたい。
③《生徒指導係・学年》 遅刻・早退・外出や服装や頭髪・盗難・交通マナー・携帯電話やスマートフォンのマナーなどに係る規範意識の向上に努める		・HRや授業、校風確立週間や街頭指導、昼の立ち番指導など、日々の学校生活を主として、規範意識が深められたか。		3.6%	75.0%	21.4%	0.0%	身だしなみ検査を中心に指導することができたが、繰り返し同じことをしてしまう生徒に対しての指導について検討する必要がある。学期毎ごとの学年集会を通じ、学校生活における規範意識を高めることができた。その成果もあって学年の問題行動が発生していない。進級後も継続できるかが課題。学年を超えての指導が困難である。普段からHRで呼びかけることはできた。その場だけ対応する生徒もあり、継続して声掛けをすることが大切だと感じている。
(2)に係り								
①《各教科》 授業公開などの実施を通じて、お互いによりわかる授業を目指す。		・各教科で授業公開等の実施をしたり、授業アンケートの結果を生かして授業改善等に役立てることができたか。		14.3%	67.9%	17.9%	0.0%	生徒の実態を理解し、身体を動かすことが好きな生徒にも苦手な生徒にも授業の中でそれぞれ達成感を得られるように授業を展開した。研究授業を実施し、教材研究や当日の参観、研究会に体育科で取り組みお互いに授業改善に役立てた。公開授業や他校の取り組みの報告会などを通じて、情報交換や改善に努めた。生徒の様子や反応をもとに、情報共有を密にし、生徒の実態に合った授業が展開できるようにした。様々な校内職員研修が開催されたり、授業アンケートが実施されたりするなど、客観的に自己の授業見つけ直す機会があった。(社会科) 初任者研修や公開授業、他校の授業参観などを通じて、情報交換や改善に努めた。生徒の様子や反応をもとに、情報共有を密にし、生徒の実態に合った授業が展開できるようにした。校内外授業公開は、見学者が少なく有効性には疑問が残るが、様々な校内職員研修が開催されたり授業アンケートが実施されたりするなど、客観的に自己の授業見つけ直す機会が増えた。時間を作って取り組みたい。授業アンケートをもとに、生徒の様子を教科で共有し、授業改善に繋げることができた。生徒からのフィードバックをもっと定期的に受けられる方法を考えていきたい。授業アンケートの結果を確認し、授業改善に充てる事ができた。課題研究やマーケティング、観光ビジネス、商品開発と流通などの授業では、地元商店への取材や地域の探索、商品開発の依頼などを通して、地域や商店街の方々との繋がりを大切にしている。課題研究発表会や地域探索会、開発した商品の販売時には、参加された方々からのアンケートや直接うかがったご意見をもとに、それぞれの授業の改善に役立てることができた。次年度も、地域との繋がりを大切にした授業を行い、生徒の地域貢献の意欲も高めていきたい。

<p>②《学年・各教科》 課題等により、家庭学習・自学自習の習慣を身に付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年、教科で課題(週末課題または長期休業課題等)が継続的に実施できたか。 ・学校生活アンケートをもとに、生徒の実態を把握することができたか。 	7.1%	60.7%	28.6%	3.6%	<p>各種アンケートによって情報を広く収集できたことで生徒の課題や直面する問題を把握しながら運営できた。学習に後ろ向きな生徒への対応が課題。調査前でもなかなか学習時間の確保ができていない生徒が多い。長期休業の課題や、進路対策としてwebドリルを取り入れた。繰り返し取り組む生徒もおり、今後も活かしていけるものだと考える。家庭学習等の実施は無し。日頃の授業内で、日常的に体を動かすことや、継続していくことの大切さを伝えた。生徒たちの理解状況に応じた課題を作るなど学習課題も工夫した。計画的に継続して取り組む生徒がいる反面、提出期限前後で実施する生徒がいるため、学習習慣の確立にはまだ課題が残る。(社会科)週末課題や長期休業課題を課し継続的に実施した。また、生徒たちの理解状況に応じた課題を作るなど学習課題も工夫した。計画的に継続して取り組む生徒がいる反面、提出期限前後で実施する生徒がいるため、学習習慣の確立にはまだ課題が残る。定期調査に向けての課題を通じて、基礎学力の向上には繋がったと感じている。家庭学習を授業の振り返りで実践している。長期休みしかできないが、生徒の中には素晴らしい実線があるので広めていきたい。定期的に週末に課題を出し、提出物を必ず提出するよう習慣づけを行うことができた。未提出の生徒が期限を守ることができるよう指導のやり方や声かけの方法などを模索していきたい。適切な分量の課題を設定し、指導することができた。簿記などの検定取得にかかわる授業では、よりわかりやすい授業を心掛けるとともに、問題集などを通しての課題を課し、理解の定着を図った。また、生徒の希望などにより補習授業等を行い、生徒個々の理解度に応じた指導を行った。次年度も、個々の生徒の理解度に応じた指導を心掛けるとともに、検定取得を通じて、更なる学習意欲を高めていきたい。</p>
<p>③《各職員》 正味50分の授業を実施するとともに、生徒の授業への遅刻をなくす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・50分授業確保にむけての態勢づくりが出来たか。 ・ICT機器を用いるなどして生徒の学習の機会を提供することができたか。 	17.9%	60.7%	21.4%	0.0%	<p>授業前に教員が活動場所に行き、チャイムと同時に挨拶ができる環境づくりをした。保健においては、各担当教諭によるICTを活用した授業を実施した。グループワーク等を通じ、生徒たちの意欲向上に努めた。ICTも活用し視覚的な学習要素も取り入れ、生徒たちの理解度が増したと感じている。ICTの活用は、生徒の学習以外にも教員間の情報共有にも活用できている。(社会科)授業開始前に呼びかけたり、教室に行って指導したりするなど、50分授業を確保することができている。また、グループワークを多く取り入れ、生徒たちの意欲向上に努めた。ICTも活用し視覚的な学習要素も取り入れ、生徒たちの理解度が増したと感じている。ICTの活用は、生徒の学習以外にも教員間の情報共有にも活用できている。50分取り組んでいるがICT機器は生徒自身が用意できない場合があり使いにくさがある。ICTの有効な活用方法を教科内で共有して、生徒の効果的な学習に繋げることができた。遅刻が常態化してしまっている生徒への声かけや指導を継続していきたい。遅刻をする生徒は減少しなかった。</p>
<p>④《学年・図書担当》 図書館運営の基本方針に基づき活動し、読書意識の涵養を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・たよりの発行等を通じて情報発信に努め、図書館の利活用に繋げることができたか。 ・読書週間の設定により、読書意識の涵養をはかることができたか。 	7.1%	75.0%	17.9%	0.0%	<p>積極的な読書、図書館利用の定着には程遠いが読書週間中は落ち着いた雰囲気形成できている。読む本を忘れた生徒への対応を充実したい。読書週間は、集中して読書に取り組める大切な期間だと考える。定期的に図書館便りを発行することができた。年2回読書週間を実施することができた。読書意識の涵養に努め、調べ学習など探究活動に繋げていきたい。</p>
(3)に係り		A	B	C	D	
<p>①《教務係・生徒指導係・各職員》 学校生活のきまりを明確にし、規律ある学習環境づくりを行い、すべての生徒が安心して学習できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活や授業のきまりを生徒や保護者にわかりやすく明示し、周知することができたか。また、その徹底を図ることができたか。 ・HRや授業などを通じて、生徒ひとりひとりの状況を把握し、職員間の情報共有や生徒支援を行うことができたか。 ・係会や学年会を通じて、改善に向け検討しながら進めることができたか。 	14.3%	75.0%	10.7%	0.0%	<p>オクレンジャー等を利用しながら、生徒保護者に密に情報発信することができた。生徒の情報は共有しやすい体制になっている。校則を見直して1年目ということもあり、きまりを共通認識できていない部分があるので周知していきたい。校則をHPへ掲載することができた。授業前に取り組み方や、安全管理について伝えたり、教科内で情報共有をこまめに行うことで安心安全な授業に努めた。授業の様子や取り組み、出欠席の状況などをHR担任と密に共有することができた。(社会科)教科会で生徒たちの出席状況や授業中の様子など情報を共有しつつ、各クラス担任にも情報提供したり学年会で上がっている生徒の様子を教科会で情報を共有したりすることができた。必要な情報の共有をしていきたい。同じことの繰り返しの内容や読めばわかる内容など精査し、時間の使い方を職員全体で理解していきたい。授業での様子を観察し、異変や人間関係の変化などが見受けられたときは、担任学年に共有することができた。授業の決まりを年度当初に周知できた。総合実践や課題研究の授業では、ビジネスマナーや地域との関係を大切にしており、身だしなみのチェックを毎時間行っている。地域に出て行っても大丈夫のように、今後も指導を続けていきたい。</p>
<p>②《生徒会係・学年》 生徒会行事・学年行事の「協働」を通して団結力を高め、生徒の集団づくりを促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協力し合い成し遂げる喜びを体得できる小さな「協働」を提供し積み重ねることができたか。 ・生徒が他者のために貢献し、互いに長所を認め合うなどの自己有用感が持てるような支援や振り返りができたか。 	14.3%	71.4%	14.3%	0.0%	<p>生徒会行事を提供しても、実際の生徒のそれぞれの場所で協働と公民的活動作りが重要である。生徒同士の仲間作りを進めていきたい。クラスマッチで1学年が総合2連覇を達成するなど、協働意識を育てているのではないかと。一部の生徒に負担が行ってしまっていることを改善したい。クラスマッチでは、クラスメイトの応援を促し、他者へのおもいやりが持てるよう、支援することができた。</p>
<p>③《生徒指導係・学年》 「いじめは絶対に許さない」姿勢を周知徹底させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止にかかわる学校の姿勢を生徒・保護者に対して発信、周知徹底ができたか。 	25.0%	67.9%	7.1%	0.0%	<p>いじめ案件が多い1年であった。今後は周知の徹底と普段からの生徒、保護者とのコミュニケーションを大切に指導していく必要がある。学年としてはいじめが発生しなかったこと。また些細な人間関係トラブルにも反応してきたことが成果として表れている。なかなか指導ができていない。</p>
<p>④《生徒指導係》 多様性を認め合うなどの人権意識を向上させ、いじめの未然防止に努める。また、いじめアンケートを主とする早期発見・早期対応のための取り組みを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動を通して、生徒の人権意識を高めることができたか。 ・いじめアンケートの回答に早期に対応することができたか。 	21.4%	67.9%	10.7%	0.0%	<p>いじめアンケートの集計、面談は迅速に対応できた。生徒の他者との関わり方については指導していく必要がある</p>

⑤《生徒指導係・学年》 人権に係る指導や面談を継続的に 行い、暴力やいじめなどを見逃さ ない取り組みを強める。	・HRや授業など様々な学校生活の場 面において日常的に機に応じた指 導が行えたか。 ・暴力やいじめなどについて適切 な指導がなされたか。	28.6%	60.7%	10.7%	0.0%	指導は徹底して行えたが、生徒の不 満や悩みを解消できるように努め、 トラブルや悩みをSNSなどの目の届 かない場所へ持っていかせない教員 の努力も必要である。定期的な個 人懇談を実施することができ、情 報収集や相談がしやすい環境づく りができたため、問題行動の抑止 につながった。生徒になかなか浸 透しない部分がある。生徒の変化 に気を付けながら、職員間でも情 報を共有し、見逃さないための取 組みができた。共有することが大切 だと思う。
(4)に係り		A	B	C	D	成果と今後の課題
①《学年・進路指導係》 進路指導の方針や指導計画を、よ り具体的なものとし、全職員の共 通理解を得る。	・より具体的な指導方針・計画が 提示され、職員の共通認識が得ら れたか。 ・計画にもとづき、継続的な指導 がHRで実践できたか。	10.7%	71.4%	17.9%	0.0%	進路行事の影響力が強く、1学年 中に学校説明会やオープンキャン パスに参加する生徒が多数いたこ とはその成果である。今後はさら に広く深く進路実現にむけて動 きたい。年間を見通した計画が立 てられなかった。年度により、生 徒の進路内訳が大きく変わるた め、計画に基づいた臨機応変な対 応が大切だと感じる。長期的な観 点で計画を立てることができなかつ た。各学年とも、計画通りに進路 行事を実施することができた。今 年度は、総合的な探究の授業と進 路活動の整理を行いつつあり、2 年生では、当初の予定にはなかつ た進路活動を実施した(7月)。お おそ計画に沿った指導ができたが 、進路希望の状況を見ながら今 後変更も必要である。特に、来年 度では総合的な探究の授業と進路 活動のすみ分けを更に進め、総 合的な探究の授業の充実を図って いく必要がある。
②《進路指導係》 進路に向けて生徒個々の意識向上 への働きかけをする。(キャリア教 育の推進)	・仕事への関心を持たせることが できたか。 ・看護体験等の各種体験事業・イ ンターンシップ・オープンキャン パスへの参加が増えたか。	10.7%	78.6%	10.7%	0.0%	参加者の数が少なかった。2年生 の10月に行われている産業フェア について、今年度は長野県専修学 校各種学校連合会北信支部による 「専門学校×長野市連携事業～職 業と学びのガイダンス2025」にも 参加し、進学の前には就職がある ことを意識させることができた。 2年生でのインターンシップには 20名が参加し、学年の正副担任 団の協力により丁寧な打ち合わせ を行うことができた。看護体験に は1名だけの参加であった。2年 生の夏休みには進学希望者にオ ープンキャンパスへ積極的に参 加させたい。
③《進路指導係》 組織的な進学・就職・公務員等そ れぞれの適切な指導を実施する。	・進学希望者、就職希望者、公 務員希望者それぞれに対して指 導が効果的に行えたか。	14.3%	78.6%	7.1%	0.0%	うまく時間を割くことができなかった。 進学希望者については、学校推 薦型選抜や総合型選抜での受験が 多数を占めるため、小論文対策 や面接対策を計画的に実施して きた。就職希望者については、 ハローワークによる講演やガイ ダンス、企業の担当者による模 擬面接等を行った。また、7月 からの求人票公開後に速やかに 求人票が閲覧できるように工夫 した。公務員希望者には、月1 回の公務員講座の実施や、外部 での講座や模試への参加への指 導を行った。今年度は自衛隊に 2名合格という結果であった。本 校の場合、特に面接指導が重要 になっているため、外部講師に よる指導の他、多くの先生方に 関わってもらいながら面接指導 を行っている。また、ハローワ ークと協力しながら、地元企業 による模擬面接指導も効果的 であった。
④《進路指導係》 生徒への継続的な進路相談の機 会を提供する。	・進路相談(面談)を定期的に行 うことができたか。	25.0%	67.9%	7.1%	0.0%	時間の確保が課題である。3年 生は6月に進路係による面談を 行った。進路希望を確認し、担 任と情報を共有しながら進路指 導に努めた。2年生は12月に 実施し、進路希望に合わせたア ドバイスをを行った。
(5)に係り		A	B	C	D	成果と今後の課題
①《生徒指導係》 生徒指導のきまりや懲戒指針など が保護者に十分理解されているか。	・入学時やPTA総会、懇談会等 の折に、全学年にわたり資料提 示や説明がなされたか。	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	入学時にも説明を行い、校則を HPへ掲載したが、生徒、保護者 ともに間違った認識をしている ケースが多い。その都度、説明 をして理解を得る必要がある。
②《教務係・同窓会担当》 地域や同窓会との関わりを密にし 、期待や要望にそった活動となる よう努める。学校の活動を通して 、地域の活性化に繋がるよう努 める。	・学校評議員会で挙げられた意 見を参考に、松濤祭や松代での イベントに積極的に関わることが できたか。 ・総合的な探究の時間を通して 、地域を理解し、地域に根ざし た活動を行うことができたか。 ・活動をHPなどで地域に発信 することができたか。	14.3%	82.1%	3.6%	0.0%	各教科総合探究等を通じての地 域との連携が、昨年より向上し た。現時点までの同窓会の行事 は順調に運営できた。年度末ま での行事を確実に実行すると共 に、120周年記念事業に向けた 準備を進める。
③《学年・教務係》 学校での活動を分かりやすく地 域や保護者に発信することで、保 護者の理解を深め、地域との連 携を深めることに繋げる。	・学級活動においては学年通信 や学級通信、保護者への密な連 絡を通して、生徒や保護者の理 解を深めることができたか。 ・HPの更新により、地域に向 けて学校活動を周知することが できたか。	14.3%	71.4%	14.3%	0.0%	毎月の学年通信発行により各種 行事の様子や成果を発信するこ うできた。学年通信の発行が定 期的にできなかった。定期的な 学年通信の発行による保護者へ の周知と、オクレンジャーでの 学年通信の発信ができた。オク レンジャーの活用について、一 部の教員だけが使用しているが 、もう少し柔軟な活用ができれば よいと思う。HPまつしる学校だ より等により、学校の様子をわ かりやすく発信できた。

<p>④《生徒会係・各職員》 生徒会や職員が、地域と積極的に関わる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動に積極的に参加することができたか。 ・職員の街頭指導により、挨拶や公共のマナーを向上させることができたか。 	21.4%	60.7%	17.9%	0.0%	<p>地域連携室の学校と地域をつなぐ際には、生徒の教育的目的を活動(協働主体的)を確認してほしい。学校教育としての学びを大切にしてほしい。生徒会活動だけに生徒の学びを求めず、学校の活動すべてにその役割の実践が本校には必要である。家庭科の実習はとて簡単ではありません。地域の人に協力していただきながら、責任をもって取り組み生徒の協働による学びと自己理解と他者理解を大切にし、公民的生活の築き方の選択肢を広げるよう、力をつけさせたい。街頭指導で生徒の身だしなみや交通ルールマナーについて指導することができた。活動を継続していきたい。地域とのつながりはあまりなかった。課題研究の授業では、地元の商店を取材して、商店の特徴などをGoogleマイマップ上にまとめる活動を通じて、地域や商店街の魅力を再発見するとともに、地域や商店が抱える課題について考え、高校生目線での解決策を、課題研究発表会で発表することができた。次年度は、個々の商店に対しての実践的な活動に繋げていきたい。</p>
<p>⑤《PTA担当》 PTA総会や松涛祭、その他のPTA活動の在り方を工夫、検討しながら、保護者の理解協力が得られる活動を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートを通じて意見を把握することができたか。 ・参加率を増加させるために工夫することができたか。 ・保護者の理解を深められるよう検討することができたか。 	14.3%	67.9%	17.9%	0.0%	<p>各委員会ごと積極的に活動する事ができた。 PTA総会の出席人数が少ない事に課題を感じているため、来年度はPTA総会と理事会を同日に行うなどの工夫を考えている。</p>